



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO. 5
(通巻136号)
平成29年(2017)
5月15日(月)

『楽しみな70周年記念運動会』

校長 飯野 博史

6月3日(土)の運動会に向けて、明日16日(火)から練習が本格的に始まります。各学年練習5時間、全体練習5時間という限られた時間での練習となります。

今年度は「70周年記念運動会」と位置付け、さらに集中して練習に取り組んでいきます。来週24日(水)から朝練習も始まります。安全に留意して、万全の体調で本番に臨めるように指導してまいります。ご協力よろしくお願いいたします。

■運動会の「ねらい」

八中の運動会には次の「ねらい」があります。

《ねらい》

- 1 学級の団結を図ると共に、全校の取組として連帯感を深める。
- 2 心身の鍛練と体力の向上を目指し、日常の取組の成果を発揮する。(オリンピック・パラリンピック教育の視点)
- 3 公正、協力などの態度を育むと共に、責任等の自覚を深める。(人権教育の視点)
- 4 開校70年を振り返り、愛校心を育むとともに、よりよい八中を目指す機会とする。

生徒代表による運動会実行委員会が発足し、運動会の「ねらい」をもとに運動会スローガンを決定しました。

運動会スローガン「Be Ambitious! 勝利を目指せ! ~新しい一歩を踏み出そう~」

本番だけでなく、本番に至る練習過程を重視していきます。入場行進、ラジオ体操、入退場など細かいところにも指導を徹底していきます。

また、昨年度も好評だった「舞い降りたしらさぎのエイサー」を今年度も全校で行います。実施にあたっては、石井 武学習指導員、鷹番ミュージカルシアターのご協力をいただきます。勇壮な太鼓、可憐な舞いをお楽しみに。

八中の運動会では演技だけでなく、実行委員会を中心に、用具係、招集誘導係など、生徒たちが自主的に運動会を運営します。運動会をつくりあげていく生徒たちの活躍もぜひご覧ください。

◎6月の主な行事予定

| | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 2日(金) 運動会前日準備 | 12日(月) 全校朝礼 |
| 3日(土) 70周年記念運動会 | 14日(水) 職員会議 |
| 4日(日) 運動会予備日 | 15日(木)・16日(金) 前期中間考査 |
| 5日(月) 振替休業日 | 16日(金) 水泳・宿泊前健康診断 |
| 6日(火) 自然宿泊体験教室保護者会 | 21日(水) ~24日(土) 自然宿泊体験教室(1年・2E) |
| 7日(水) 避難訓練 | 26日(月) 振替休業日(1年・2E) 学年朝礼 |
| 8日(木) セーフティ教室(2、3年) 進路説明会(3年保護者) | 27日(火) 専門委員会 |
| 9日(金) 教育実習終 | 28日(水) 小・中連携「二校研修会」 |
| 10日(土) ウィークエンドスクール | 29日(木) 中央委員会 |
| | 30日(金) 校外学習(2年) |

5月30日 開校記念日
美しくも哀しい『しらさぎの伝説』



目黒区立第八中学校校歌

佐藤春夫 作詞

大中寅二 作曲

君は聞かずやむさし野の
碑ひびすま衾あたり伝えい
信義に生きし白鷺の
形見と咲ける野の花ぞ
今わが校の記章しるしなる
君は見ざるや目黒区の
竹より直く学ぶ子は
正義と真理愛しつ
命の華を生ききそい
みな勤いそしみ労に楽しむを

5月30日は開校記念日です。本校は昭和22年に開校しましたので、今年で開校70年目を迎えます。開校記念日にちなんで、本校の校歌と校章の由来についてご紹介します。第六代大脇憲三校長先生（故人、昭和38年4月～昭和45年3月まで在職）のお話を当時のPTA広報担当の方が聞き取ったものです。（毎年掲載しています）

我が八中の校歌の歌詞、又校章にデザインされた「さぎ草」の由来を、皆様ご存じでしょうか。

さぎ草は高さ15～20センチメートルの多年草の湿地ランの一種で、世田谷区の花に指定されています。昔、碑衾村と言われた八中所在地あたりから、世田谷区奥沢鷺の谷にかけて、田圃のあぜ道にやさしい白い花を咲かせていたと言われております。

この小さな花には次のような悲しく、美しい話が伝えられています。

今から650年程前の室町時代のことです。世田ヶ谷城主の吉良氏が住んでいました。

この城主の奥方は、奥沢城主大平氏の娘でトキワ姫といい、戦国の世に見られた両城主との間をつなぐための政略結婚でした。しばらくは平和な生活が続きましたが、ある時、領地の境界の争いから遂に二人の城主が戦うことになりました。大平方の一隊は吉良方の世田ヶ谷城近くまで攻め込みました。トキワ姫は大変この戦いに心を痛め、講和か救援を頼むほかはないと思われ、以前より可愛がっていた一羽の白鷺を使いとして、脚に手紙を結びつけて放ちました。白鷺は城の上空を二、三回飛び回ると、古巣である奥沢城に向かって飛び去りました。

ちょうど今の八中あたりまで来た時、敵兵に見つけられ、弓で射ち落とされてしまいました。羽を打ち抜かれた白鷺は、白い体を真っ赤な血で染めながらもバタバタと懸命に飛び上がろうともがきましたが、力尽きて息絶えました。

世田ヶ谷城はトキワ姫と白鷺の努力もむなしく敵の手に落ち、トキワ姫も自害しました。

しかし、その後白鷺の死んだ田圃のあたりから一本の草が生え、白い花をつけました。よく見ると白鷺が足に短冊をつけて飛んでいるようです。

これを知った人々は、白鷺の魂が花になって生まれ変わり、自分の主人のために信義に生きようとした姿だと白鷺の死を悼み、さぎ草を形見として大切に育て、またこの話を永く伝えました。

今は九品仏のさぎ園など限られた場所でしか見られなくなったさぎ草ですが、八中が創立された折、校章にデザインされ、また校歌の作詞を依頼された佐藤春夫先生もこの伝説に感銘を受けられ、「信義に生きし、白鷺の形見と咲ける野の花ぞ…」と歌い込まれたそうです。